NIE実践報告

1．タイトル：自分の命は自分で守る「津波防災の日」

2．学校名

北海道浦幌町立厚内小学校

3．実践者名（代表者名）

阿部　英一

4．学年

全学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

学級活動

6．単元（本時の学習課題）名

自分の命は自分で守る「津波防災の日」～稲むらの火

7．目標(狙い)

新聞記事を通じて防災に対する興味・関心を高め，自分の命は自分で守る意識を高める。

8．評価の視点

「津波防災の日」が制定された経緯（3･11東日本大震災，稲むらの火）を新聞記事から理解することができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

防災教育（地震・津波）として1時間実施。（年間計画4時間　2/4時間）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

本校は北海道太平洋岸に位置し，東日本大震災においては４m超の津波被害を受けた。
このことから，本校では防災教育を推進している。
東日本大震災や地域防災に関する新聞記事のコーナーを廊下に常設し，掲示教育を推進している。
避難場所を検討し「自分の命は自分で守る」を合言葉に，より実践的な避難訓練等も実施してきた。
体験的な学習に加えて，「自助」「共助」意識を育てるために，「稲むらの火」を教材とした学習を計画。
平成23年度に制定された11月5日「防災津波の日」に合わせて授業を実施した。
導入段階で新聞記事を活用し，東日本大震災による津波の被害，「稲むらの火」について学んだ。
自分の命を自分で守る「自助」だけでなく，互いに助け合いながら生き抜く力「共助」の意識を高めた。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

「稲むらの火」の話はこれまでにも聞いたことがあったが，11月5日という寒い季節の話だとは思わなかった。
当時の人々は命を守るために協力していたことがわかった。

12．成果と課題

今年度から制定された「津波防災の日」のため新聞資料が揃うのか準備の段階で不安であったが，丁度良い時期にいろいろな新聞で紹介され良かった。震災が起きたばかりで生々しい話も多く資料選択に迷う事も多かったが「今やらなければならないこと」と位置付けて全学年で実施できたことは大きかった。
今後も，子ども達の防災意識を育てていくために「石巻てんでんこ」など防災教育を継続して実施していく。そのための有効な教材，資料として新聞を活用していきたい。